

# チューリップ 四季だより



上段：新たに砺波市文化会館屋上に設置された展望台「チューリップ  
パノラマテラス」からの眺望

下段：チューリップ四季彩館前の600品種花壇

2014  
Vol.64



# 試験場で運命的に 出会ったチューリップ

名畑清信

私がチューリップと深くかわるようになったきっかけは昭和四十六年のことである。

この年に富山県農業試験場に農林水産省の「花き球根病害防除」に関する指定試験地が設置され、ウイルス病の防除に関する研究を命じられたのがそもそもの始まり。

その後昭和六十二年まで十六年間の長きにわたって、多少大げさに言えば、チューリップにどっぷり浸かった生活を送ることになる。とは、着任当初は勿論知る由もないことであった。ちなみに指定試験というのは、本来国が行うべきものであるが、立地条件と研究環境が整っている地方の試験場を指定して行わせる制度で、人件費を含む研究費を国が負担することから、その位置づけは国の研究機関の研究室と同格とされ、昨今研究の世界を賑わせている理研風(?)の言葉で言えば研究ユニットに相当するものである。

多少前置きが長くなってしまったが、このように、私とチューリップとの出会いは決して情緒的なものでなく、研究の対象として必然的にはじまったのであった。指定試験地主任として農林水産省から新進気鋭の故草葉敏彦博士が着任され、博士のもとで、チューリッ

ップを楽しんだり愛でたりするということよりは、むしろ、その気難しさと格闘することを余儀なくされることになるのである。

なによりもとまどったのは秋に植えて翌春に開花を迎える二年生で、しかも永年性の球根植物であるという特殊性。言い換えれば研究のデータを出すのに二年を要し、一旦ウイルス病に罹ると永久に罹病したままという植物と出会ったのである。一年で成績が出る多くの植物と違い、試験を開始した当初はこの性質の故に、農家の期待に応えるような成績を出すのにも苦勞したものである。このような中でも、モザイク病の研究を中心に、バイラス(当時農家の間ではモザイク病のことをバイラスと呼んでいた)が本場にアブラムシで伝染するのか?伝染するとすれば時期はいつ頃か?根や葉の接触で伝染することはないのか?などという、農家の長い間の素朴な疑問に実験的な解析を加えて応えることができたものと思っている。

モザイク病を中心とする研究が続ける一方で、多くの新たな病害虫が大発生してその対応にも追われた。

その一つが、くしゃくしゃ病と呼ばれ、長らく原因不明の風土病とされてきたかいよう病。二つ目は球根出荷後に発生して問題となった黒くされ病。三つ目は当初はタバコバイラスと呼ばれて恐れられた、えそ病。これら三つの病害はいずれも昭和四十七〜五十二年

ごろに突発的に大発生したが、速やかにその原因を特定し、球根消毒や遅植えによる被害回避策などを明らかにすることができた。



ギリシヤ・クレタ島でチューリップ遺伝資源の探索を行う筆者

そして四つ目が「チューリップサビダニ」。昭和五十年代前半から被害が顕在化して、兵庫の淡河や埼玉の越谷などの促成栽培産地からのクレームが相次ぎ、呼び出しを受けて出向いた埼玉県では、消毒済みのラベルが無いものは今後一切買わないと強い口調で念を押されたことが鮮明な記憶として残っている。緊急防除試験でアクテリックによる消毒法を確立することができたが、この方法はいまだに防除の主流となつていふことを思うと感慨深いものがある。

以上がチューリップとの運命的な出会いとその後の関わりであるが、研究を行つていた間はチューリップを楽しむ余裕など殆どなかったというのが正直なところで、春のゴールデンウィークは花の調査、秋の行楽シーズンは植え込みを追われたことばかりが、記憶に残つていたのである。

しかし、神は粋な計らいをすることもあるようで、昭和五十六年には県からオランダへ病害虫に関

する試験研究の動向調査に派遣され、キューケンホフ公園で満開のチューリップを堪能することができた。また平成三年にはやはり県からギリシヤへチューリップの遺伝資源探索に派遣され、クレタ島でチューリップ・クレチカやサキサテリスなどの原種をつぶさに見ることができた。試験研究で出会ったチューリップが、長く研究を続けたが褒美に本場のオランダや原種が自生するクレタ島まで私をいざなってくれたような気がしているのである。そして、研究の師と仰ぐ故草葉博士に巡り会わせてくれたのもまたチューリップなのである。



略歴  
はた きよ のぶ  
な 畑 清 信  
植物病理専門家

富山県生まれ。富山県農林水産部参事普及技術課長、農業試験場場長などを歴任。(財)花と緑の銀行花総合センター部長を経て現在(株)山正技術顧問。昭和46年から62年までの16年間にわたりチューリップの病害虫防除に関する研究に従事。昭和62年「チューリップウイルス病の発生生態と防除に関する研究」で北海道大学から農学博士の学位授与。平成3年にはギリシヤ・クレタ島でチューリップの遺伝資源探索に従事。新潟大学農学部卒。樹木医。専門は植物病理学。

「砺波市合併10周年記念事業」

# 2014となみチューリップフェア が開催されました

今年のチューリップフェアは

「未来への しあわせ運ぶ 愛の花」をテーマに、600品種250万本のチューリップが咲き誇る砺波チューリップ公園をメイン会場として、4月23日（水）から5月6日（火振休）まで14日間開催しました。

事終了いたしました。

開会初日は砺波市合併10周年記念行事の開幕にふさわしく、晴天の開会式となり、「砺波市民の日」として市民無料デーとしたこともあって、多くの方にご入場いただきました。会期前半は好天に恵まれましたが、4月29日、5月3日・5日の祝日が雨天となり客足は伸びませんでした。しかし、好

天に恵まれた5月4日は、ここ数年で最も多い5万4千人のお客様が入場されました。

チューリップの開花につきましては、4月に入ってから好天が続いたことから、遮光ネットによる開花調整を行い、開幕時は会場全体で5割程度の開花となりました。

会期前半の好天で、開花は順調に進み、4月26日には「満開宣言」を行いました。

また、会期末まで良好なチューリップをご覧頂けるように、4月29日からの3日間で、約10万本のチューリップを入れ替え、会期末まで美しいチューリップを楽しんでいただきました。

最後になりますが、チューリップ

フェアの開催に対しボランティア等、ご協力を頂いた皆様に、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。



チューリップタワーと大花壇



新品種花壇「とやまレッド」



水上花壇



オランダ風花壇



デコレーションパネルとタピ・ドゥ・フルーとなみ



サテライト会場

# チューリップ四季彩館 みどころ紹介

## 常設展示



### 「花・万華鏡～夏の花～」

6月20日(金)～7月22日(火)  
オリエンタル系のユリなど  
白い花を中心とした展示を  
します。



### 「花・万華鏡～盛夏の花～」

7月25日(金)～9月16日(火)  
グズマニアなど熱帯植物を  
中心とした展示をします。

## チューリップスクエア 世界で唯一、年中チューリップが咲いている場所

### 「アイスチューリップス」

アイスチューリップと呼ばれる栽培法で真夏でもきれいなチューリップが咲いています。



## 小企画展

### 「香りを楽しむハーブの寄せ植え展」

6月20日(金)～6月30日(月) 場所：風車前広場

### 「ペチュニアの寄せ植え展」

7月11日(金)～7月22日(火) 場所：風車前広場

## 夏季特別企画展

チューリップ四季彩館・砺波市美術館合同開催！！

### 砺波市合併10周年記念事業

## 「アンパンマンとやなせたかし展」

日時：7月25日(金)～8月31日(日) 10:00～18:00

会場：チューリップ四季彩館ホール・砺波市美術館企画展示室

入場料：大人・高校生以上 800円(700円)  
中学生 400円(300円)  
小学生 200円(100円)

- \*小学生未満無料。障がい者手帳提示者は無料。
- \*（ ）内は前売り料金および20名以上の団体料金。
- \*この入場券で四季彩館、美術館の常設展もご覧いただけます。



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

## 富山県花総合センター(エシガガーデン)

開園時間 午前9時～午後4時30分

### 展示ホール 初夏を彩る花まつり2014

入園無料

### ～春植え球根たち～

と き：6月13日(金)～15日(日)

グロリオサ、ユーコミス、アマリリスなど、春植え球根植物たちでホールを彩ります。期間中は花苗販売コーナーや寄せ植え体験コーナー(土日のみ開催、有料)もあります。



昨年の様子

お問合せ 〒939-1383 富山県砺波市高道46-3 電話 0763-32-1187 Fax 0763-32-1219

